

# 木知原の今昔!

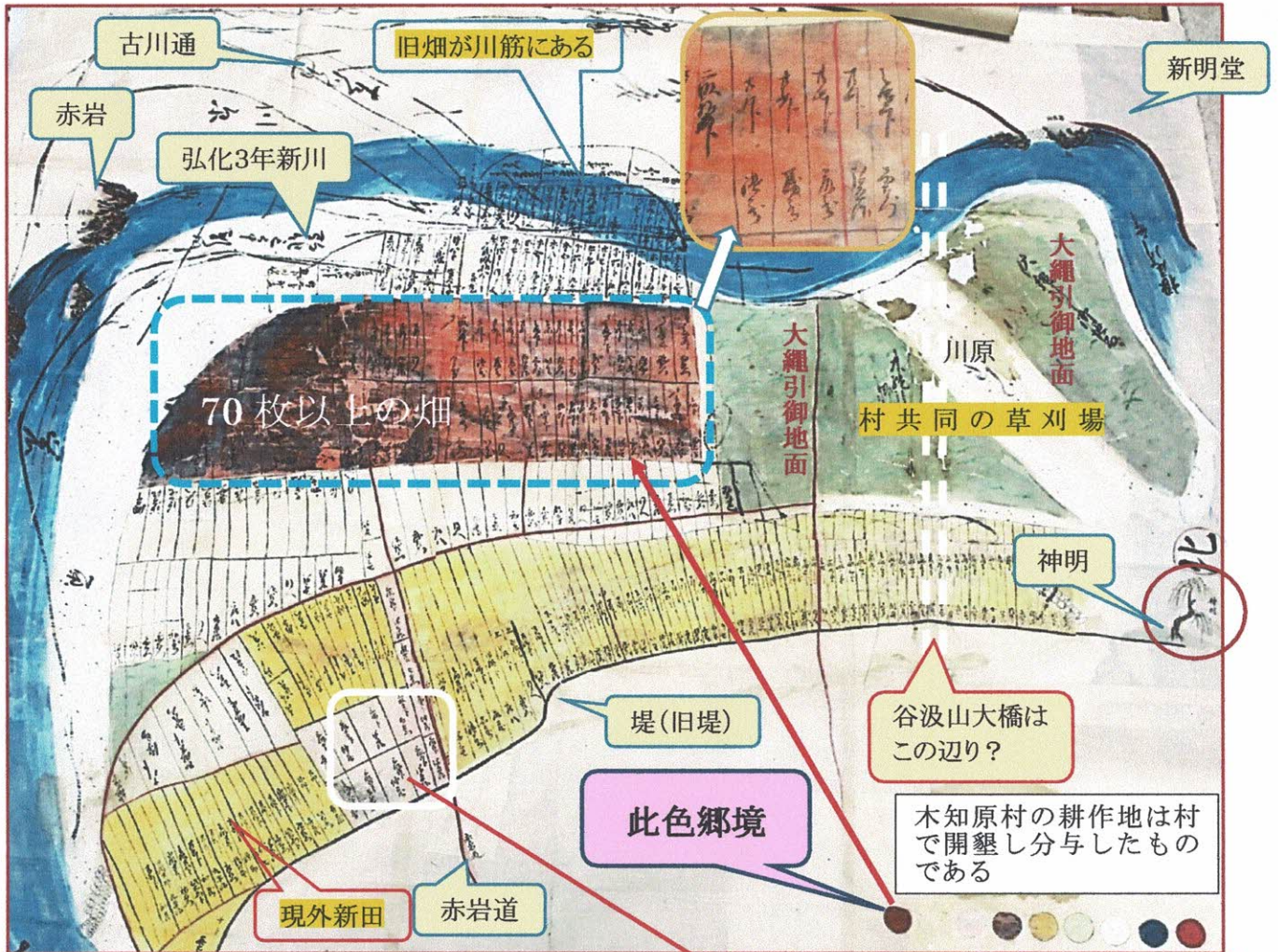
7号: 5・2・17

郷境争論 (其の二)

## おどろきの開墾パワー!!

河原ってそれほど大切なところだった？  
下図を見ると「木知原村の食糧庫」である。  
この畑が無かったら生きてはいけない位の  
世情。(コメは年貢・畑作と副業で生計の時代)

西之河原が郷境争論の場となっていたことは前号でお知らせしたとおりである。  
下図は争論真最中の西之川原の土地利用図面である。両村が競うかのように河原を隙間なく開墾しており、畑の一枚一枚に面積と持主が明記されている。(木知原村作成・戸田藩)



図面に「弘化3年新川」とあるは1846年。代官所通達が1858年であるから、年代的に見てこの絵図は訴訟のための資料として画かれたものと思って間違いないでしょう。

「此色郷境」とある茶色の部分だけでも70筆以上ある。また、川中に畑が画かれていることから「開墾しては流される」の繰り返しでその都度新たな境がトラブルになったと思う。

私も畑仕事の手伝いの記憶はあるが桑・柿・人参・ゴボウ・ラッキョ・さつま芋・ゴマ・麻等が良く育つ畑であった。筏や船で渡ったり、陸橋から梯子で降りたりした時代もありなかなか大変であった。(勿論昭和20年代の話ですが…) 横山

